

岡山県生涯学習審議会及び岡山県社会教育委員の会議第2回会議

議事概要

日時 令和6年1月22日（月）

13:00～15:00

場所 日本赤十字社岡山県支部5階
会議室2

1 開 会

2 議 事

- (1) 前回会議の検討事項について 及び 県内の取組例について
- (2) 子どもや若者が集い学び合う場となるための公民館の取組について
- (3) その他

4 閉 会

※発言そのままではなく、発言要旨としてまとめております。

<議事概要>

○事務局

「資料1, 3, 4」により前回会議の検討事項、県内公民館の状況（各市町村ごと）、
今期テーマに沿う県内取組例の紹介

「資料2」により今期テーマの論点と議論の対象について説明

会長	御意見、御質問はあるか。
委員	岡山市ではESDに市をあげて取り組んでいるようだが、一方、岡山市以外ではESDという言葉はあまり使われていない印象がある。県としては、ESDをどのように捉え取り組んでいるのか。
事務局	学校教育担当課において取り組んでいるが、当課としてもこれからの検討課題としたい。
委員	事務局が示した議論の対象としては、1つは、「公民館の人員を含めた体制や環境について」、2つめは「子どもや若者と地域をつなぐという視点を公民

館がどう意識すべきか」という理解でよいか。

事務局

人が孤独や孤立に陥ることなく、人との繋がりを育みながら生きていけることが、ウェルビーイング向上に必要不可欠であると考えている。繋がりとということを意識して、子ども・若者が活動に参加するに当たり公民館として備えるべき環境・体制整備と、子ども・若者と地域を繋げるために公民館職員はどのように働きかけるかという2つの視点で、本日の実践発表を聞いていただけたらと考える。

委員

資料には、「孤独」と「孤立」が同列に並んでいるが、「孤独」な状態は自ら選択可能であり、他者との繋がりも切れていないため、正確には「孤立」とは異なる。丁寧な使い分けが必要である。

委員

ウェルビーイングの達成について、現時点では個々人が持つ指標による議論となっている。地域全体におけるウェルビーイングを測る指標は、既にいくつか定義づけをしている研究がある。検討に当たって、そうした既存指標を活用する方法もあるが、今回は、それらとは異なる岡山県としての指標を何か提示する方針か。何を指標とするかによって議論の仕方も変わるため、方向性を確認したい。

会長

先行研究等によるウェルビーイングを測る指標を使うか、今回の議論の中で、岡山県として改めて評価指標を導き出すか、事務局としてはどのようにお考えか。

事務局

現時点では、現状に沿った指標を県として何か導き出せたらと考えているが、先行事例も参考にしながら皆様と相談させていただきたい。

会長

先行研究では教育分野以外も対象に含むものがあり、今回の議論に適切かどうか含めて研究しながら、岡山県として、社会教育、生涯学習の守備範囲でウェルビーイングを測る指標を提案したいがいかがか。

全員

了

会長

第1回会議の内容を振り返り、今後の議論の進め方について委員の皆さんに御承知いただいた。ウェルビーイングについての先行指標、研究については今後情報収集していきたい。

本日は、子どもや若者が集い学び合う場となるための公民館の取組について岡山市の事例を御紹介いただいた後、皆さんと意見交換したい。

○岡山市教育委員会生涯学習課公民館振興室 友延栄一室長補佐

「資料 公民館の持続可能な社会づくりを推進する取組
～岡山市立公民館基本方針の運用～」

○岡山市立西大寺公民館 内田光俊館長

「資料5 雄神学区の『みんなで学校ごっこ』で築こうとしていること」

会長 お二人の御発表を踏まえて、委員の皆様から質問や意見をお願いしたい。

委員 今回の御発表をお聞きして、これは、「地域活動の地域化」だなと感じた。どういふことかと言うと、学校部活動の地域移行が進められているように、教員の負担を減らすためにも、伝統行事等地域でできる活動や本来地域が担うべき活動は地域の方に活躍していただければよいのではないかということだ。

委員 「雄神みんなで学校ごっこ」の先生役は何人いたのか。

岡山市 小学生の先生役は各教室に複数人いた。高校生による先生役は1名であった。大人の先生役は、バンド演奏以外の教室は各1名である。

委員 事務局や岡山市が想定している「若者」の年齢層等、定義はあるか。ターゲット層が具体化すると、その後の策も浮かびやすい。

岡山市 岡山市の公民館活動でターゲットとして力を入れている「若者」は、1つは中学生である。岡山市では中学校区に1つ公民館を設置しており、地元の中学生と一緒に活動していきたいと考えている。

もう1つは、大学生である。インターンシップを積極的に受入れ、大学生による企画数を増やすことで、社会教育活動への参加窓口を広げることを狙いとしている。

会長 小学生は比較的、地域と繋がりやすく、高校生も総合的な探究や18歳選挙権等、以前と比較し地域参加について学習する機会も増えている。

一方、中学生は部活、塾等で忙しく、学校も小学校ほどは地域活動に積極的ではないため、岡山市が中学生、大学生をターゲットとしている理由はこれらの背景があると推測される。

委員 中学生は放課後も忙しく、平日は地域活動に参加することは難しいが、部活

動の在り方も変わってきており、以前よりは、比較的週末にゆとりができてい
ると思われる。学校側も、開かれた学校づくりや地域学校協働活動等を通して、
地域と関わりを求めているが、多くの教員は学校の所在地外から通勤している
ため、赴任して初めて地域の方と関わることになる。一方、生徒はその地域の
住民であるため、職員より地域との関係が近い。地域の方は、若い世代へ行事
の継承を望んでおり、最近ではコロナ禍で途絶えていた地域行事も復活してき
ているので、中学生がボランティアとして活躍しているようである。

地域と学校、地域と公民館、子どもと公民館それぞれに関わりはある。学校
としては、公民館が核となってそれらを繋ぐコーディネーターとして機能して
いただけると、地域の関係者と繋がりやすくありがたい。

岡山市の実践発表は、とても興味深い取組で参考となった。子どもたちは、
学んだ内容の成果発表の場があることを望んでいる。公民館で学んだ方々も同
様で、発表の場として学校を活用してもらえたらと思う。

委員

発表された岡山市立西大寺公民館は、方針と指標を明確に持ち活動されてい
る。岡山市公民館振興室も市内全域の公民館へ丁寧にヒアリングし、伴走支援
ができています。

ウェルビーイングという視点では、子どもたちが先生の役割をすることで、
自己肯定感を上げ、周囲の人々に幸福感が波及し、個のウェルビーイングは上
がったと言えるが、この行事後、公民館に立ち寄る回数等が増えるなど地域全
体の繋がりに変化はあったか。また、公民館職員の働きかけとして何が効果的
だったと考えているか教えていただきたい。

岡山市

西大寺公民館は雄神学区からは地理的に離れており、この取組を行ったこと
で住民の公民館へ立ち寄る回数が急に増えたということはない。

しかし、公民館に来館してもらうことそのものを目的とするのではなく、公
民館で学び、繋がりを広げた者が地域で活動し、公民館という場所に限らず「公
民館活動」ができることが理想であると考えている。取組が終わった後もその
効果が持続・波及していくことを期待しており、狙いでもある。

発表した実践事例は、元々は兵庫県播磨町で取り組まれていたものを、公民
館職員が取り入れたものである。職員自身が日頃から学習する姿勢を持ち、市、
県を超える人的ネットワークを持っていたことから、他地域の好事例を知ること
ができた。

実践に当たっては、公民館職員が中心的な役割を果たすのではなく、次年度
以降も地域の方で継続していただくことを見据え、職員はアシストに徹した。
初めは戸惑いもあったようだが、様々な経験を持つ地域の方々が最後は積極的
に関わってくださり、支障なく運営できた。

委員	<p>地域学校協働活動等でも人と人の繋がりは重要である。浅口市職員においても、資格取得研修等で、他地域の職員と繋がり、好事例を持ち帰って実践することがある。外の事例を知ることは重要である。</p>
委員	<p>本年度、雄神地域の夏祭りに参加した。以前より子どもの参加数が増え盛況であったが、この公民館の取組が良い波及効果を生んだ可能性もあると感じた。1つのきっかけが波及し、その他様々な成果を出し始めているのではと思う。</p> <p>岡山市立西大寺公民館のように、公民館から地域に出張して関わってくださるのはありがたい。若者だけでなく、青年世代も公民館と繋がっていない人は多いが、青年世代は地域へ力を発揮できる年代でもある。子どもの行事をきっかけにその親である青年世代も繋がることができるとよい。</p>
委員	<p>県北では公民館職員数が少なく、既存の地域行事等や担当業務を抱えながら、新規事業を企画することが難しい。岡山市立西大寺公民館では、新規事業を行う上でどのように工夫し、既存事業との調整をされたか。</p> <p>また、西栗倉村では、地域活動参加による意識変化を、行事の参加前後で定点観測している。岡山市では、参加者の意識変化等をどのようにとらえているか。</p>
岡山市	<p>岡山市雄神地区では、コロナ禍によって、子どもを対象とした地域の行事が中止されていたが、再開が検討されていたところへ公民館行事の提案をしたことから、地域の方に受け入れてもらいやすかったというタイミングの良さもあったと思われる。2回目も実施される予定だが、既存行事と合同開催する等、地域の方によって、関わる方に過度な負担がかからないように工夫されている。</p> <p>意識変化を測る指標は岡山市でも必要と考えており、矢掛町の取組に関する岡山大学の研究や学識経験者の意見を参考とし、行動変容のきっかけ、地域との関わり方の変化や今後希望する活動等どのような内容とするか検討しているところである。こうしたアンケートに併せて、今後実施したい内容を考えるためのヒアリングを実施する予定である。</p>
会長	<p>事業実施直後にアンケートを行うと肯定的な意見が出やすいことから、一定の期間をあけて調査を行う手法がよいと思われる。単なるイベントとして事業を終わらせず、その後、中長期的に働きかけていくことが大切である。</p> <p>評価の可視化自体は大切であるが、それ自体に時間を要し過ぎることは本末転倒となり、注意が必要である。</p>
副会長	<p>公民館のアウトリーチ活動は全国的に多いのか。</p>

岡山市の公民館は中学校区に1つあるが、小学校区で見ると、子どもが徒歩で行くには遠く、保護者の送迎が必要な場合もある。活動内容によっては保護者同伴が必須のものもあり、行事の御案内をいただいても、忙しく参加できないことがある。このような課題に対して公民館からの働きかけはあるか。

岡山市

公民館職員は既存の地域行事や担当業務を抱えており、新規事業を実施するには既存事業を減らすなど工夫が必要である。既存事業を見直し、公民館主催ではなく地域の自主活動に移行が可能か検討されているが、事業の移行には数年要する場合もあるため、公民館職員がアウトリーチ活動までできるケースは少ない。

ただ、公民館活動が地域へ認知されている学区では、子どもたちが放課後に多く集まり賑やかである。公民館が存在感を示すことができ、地理的にも近ければ自ずと地域住民は集まる。

地理的に公民館が遠い学区において、職員によるアウトリーチ活動だけで補うことは現実的ではなく、公民館以外にも、社会教育施設や民間施設と連携しながら検討する必要がある。

岡山市では公民館に事業担当職員が配置され、他の自治体より活動はしやすい状況にはあるが、これからは公民館職員の意識を変え、内部職員で完結するのではなく、外部の機関等と連携し、役割を分担しながら活動を広げていかなければならない。

また、公民館のアウトリーチ活動で意識すべきことは、最終的に、公民館職員が関わらなくても、地域の方で継続することができるようにすることである。今回の発表事例も、そうした、地域の力の向上を狙いとして、最初から学校や福祉交流プラザなどと協力・役割分担して実施している。

委員

公民館という建物の中で実施される若者を対象とした活動としては、真庭市では、子ども食堂機能を持ち合わせた行事等がある。それ以外で行われる「公民館活動」としては、文化センターや市振興局における、未就学児と保護者を対象とした活動や、空き家を活用した居場所づくりがある。また、図書館では来館者が主体的に参加できる「もちより図書館」事業が行われている。公民館が先導はしつつ、公民館以外の場所で生涯学習・社会教育活動が行われており、真庭市全体でみると良い活動ができており総合力があるといえる。

会長

公民館数、公民館職員数は減ってきており、公民館が単体での事業主催を今後も推進し続けることは難しい。御発表いただいた西大寺公民館の取組は公民館の主催事業でありながら、地域で持続して取り組めるよう働きかけ、結果として中長期的な地域の幸せの実現に繋げており、大変参考となるもの

である。

今回は公民館そのものの取組だったが、次回は、NPOや民間企業が、公民館を触媒・仲介として取り組んでいる事例を御紹介いただければどうか。

公民館が事業を主催する力をもつことも大切であるが、それ以外の関係機関と連携することでウェルビーイングの向上を目指すことも視野に入れて調査をしていく必要がある。